

令和6年度「人権教育総合推進地域事業」事業実施報告書

委託先（ 鹿児島県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

| | |
|----------|--|
| 調査研究のテーマ | 様々な違いを認め、 自他を大切にできる子供の育成 ～学校・家庭・地域の連携を通して～ |
|----------|--|

○調査研究のテーマを設定した目的

種子島南部に位置する南種子町は日本で初めて鉄砲が伝来した土地であり、日本唯一の大型ロケット発射場を有するJAXAの宇宙センターが設置された、歴史と最先端技術が同居する町である。町内には小学校が8校、中学校が1校あり、ほとんどの学校が創立150周年を迎えた。しかしながら、このたび推進協力校に指定する長谷小学校は、創立78周年と歴史の浅い学校である。長谷小学校区は太平洋戦争後に、様々な理由で北海道や沖縄等から種子島に移り住んだ方々が開拓した地域であり、入植者の「子供たちに教育を受けさせたい」という熱い思いが実り、小学校を設立したのである。このような歴史的経緯や山村留学生を受け入れてきた実績もあり、他地域から移住してきた人々を受容し、多様な人々が協力し合う風土がある。

平成11年、南洋や沖縄方面からの移住者の子孫が呼びかけ、エイサーを長谷地区独自の郷土芸能に、という声が高まり「長谷エイサー同好会」が発足した。現代でも毎年、運動会で校区住民が一体となってエイサーを披露しており、文化が継承されている。

本事業を展開する際の最重要人権課題を「アイヌの人々」とし、アイヌの人たちが厳しい差別や偏見に屈することなく、民族としての歴史的な存在意義を保ってきたことや、大切に育んできた自然観や人間観を学ぶことで、校区の文化を大切に育んできた先達の思いや願いを振り返り、地域を尊び、愛する心に気付かせたい。

そこで培った思いは、様々な違いを認め、自分のみならず他者も大切にできる子供の育成へとつながると考え、調査研究のテーマを設定した。

○調査研究の概要

学校・家庭・地域が連携して、様々な違いを認め、自他を大切にできる子供を育成するために、学校が中心となり「人権教育の充実」、「家庭との連携」、「地域との連携」を調査研究推進の柱とする。

また、南種子町人権教育総合推進会議を設置し、学校・家庭・地域が一体となって人権教育を推進するモデルを形成し、町内外に人権尊重の精神を波及させる。

2. 基本情報

推進地域の概要

○都道府県名及び市町村名

鹿児島県

○推進地域名

南種子町

○推進地域市区町村教育委員会名

南種子町教育委員会

○これまでの研究指定等の状況

—

推進協力校の概要

○学校名

南種子町立長谷小学校

○学級数

4 学級 (うち特別支援学級1学級)

○児童生徒数 (名)

令和6年度 全児童数：26人

○学校名

南種子町立花峰小学校

○学級数

4 学級 (うち特別支援学級1学級)

○児童生徒数 (名)

令和6年度 全児童数：12人

○学校名

南種子町立南種子中学校

○学級数

7 学級 (うち特別支援学級2学級)

○児童生徒数（名）

令和6年度 全生徒数：13人

○指定理由

推進地域の南種子町は、様々な地域からの移住者を受け入れ、共生してきた歴史がある。現在でも宇宙留学生（山村留学生）を全国各地から積極的に受け入れており、多様な人々が協力して生活することを大切にしている。

推進協力校の長谷小学校は、令和5年度に当県教育委員会が指定する「子どもの人権プロジェクト推進校」として、道徳教育と関連付けて、人権教育の視点に立った教育活動を実践してきた。その成果として、教職員が人権課題についての知的理解を深め、児童の人権意識を高める雰囲気が高まった。

花峰小学校は「360°の支援」を合言葉に、人権教育を基盤に児童一人一人を大切にしている個性の伸長に取り組んでいる。精度の高い全体計画及び年間指導計画が整備されており、令和6年度は南種子町人権同和教育実践校に指定された。

南種子中学校には町内全ての児童が進学しており、宇宙留学生（山村留学生）も在籍している。生徒会が「南中いじめ撲滅宣言」を制定しており、令和5年度鹿児島県いじめ問題子供サミットで代表生徒が取組を発表した。

このように、地域が一体となって人権教育を推進できる素地が整っているため、推進地域に指定した。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

| | |
|--------------------|---|
| ①子供 | ○ |
| ②女性 | ○ |
| ③高齢者 | ○ |
| ④障害者 | ○ |
| ⑤同和問題 | |
| ⑥アイヌの人々 | ◎ |
| ⑦外国人 | |
| ⑧-1 HIV感染者等 | |
| ⑧-2 ハンセン病患者等 | |
| ⑨刑を終えて出所した人 | |
| ⑩犯罪被害者等 | |
| ⑪インターネットによる人権侵害 | ○ |
| ⑫北朝鮮当局による拉致問題等 | ○ |
| ⑬性的指向、性自認 | ○ |
| ⑭その他（ ） | |

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

ア 現状と課題

南種子町内の小・中学校は、小規模校が多く、学校に対して地域が協力的である。一方では、宇宙留学制度で毎年県外から受け入れる新たな留学生との人間関係の構築に戸惑いを感じる児童生徒や、自他の短所にとらわれる児童生徒の姿が見られるなどの課題がある。

イ 調査研究の内容

調査研究を進めるに当たり、以下のとおり仮説を設定した。

学校・家庭・地域が一体となって、人権に対する知識・理解を深めるとともに、人権感覚を高めれば、様々な違いを認め、自他を大切にできる子供を育成することができるのではないか。

そこで、推進地域において、以下のことに取り組ませた。

- 校区の文化を築いてきた高齢者との交流を通して、大切にしてきた思いや願いを知るとともに、ふるさとや自分の家族を誇りに思う気持ちを育み、自分の大切さに改めて気付くことで、自他の人権を守ろうとする実践行動ができる児童生徒を育成する。
- アイヌの人々が育んできた歴史や文化と、自分の町の歴史や文化の共通点や相違点を学び、ふるさと種子島の捉え直しをする。
- 学校関係者による人権教育推進委員会や、地域住民等を交えた人権教育総合推進会議を設置し、推進協力校の取組を地域全体に広げる。

県教育委員会は、以上の取組に対して、適宜情報提供するとともに、推進体制や進捗状況の確認及び指導を行った。

○実施方法

ア 「アイヌの人々」に関する学習

総合的な学習の時間に、アイヌの人々が自分たちの文化を守り継承してきたことを、長谷校区の移住の歴史等と重ねて考える学習をした。その後、児童が設定した学習課題を基に、校区の高齢者に聞き取りを行った。高齢者を始めとする先達が困難を乗り越えて開拓したことで現在の校区の基盤が構築されたという事実と、アイヌの人々が様々な辛苦を味わいながらも自分たちの文化を守り続けてきたことを重ねて考えたことで、歴史は人々が生きてきた証であるということ学ぶ機会となった。

また、夏季休業中に南種子町の全教職員を対象にオンライン研修会を開催し、北海道平取町立二風谷小学校長から「アイヌの人々」に関する歴史や現状、アイヌ文化継承に係る学習内容等について講話をいただいた。

学習のまとめとして、学んだことを保護者や地域住民に向けて発表する場を設定し、地域文化を継承していこうという思いを発信することができた。

イ 仲間づくり

児童生徒とあらゆる他者が深く関わる活動を意図的・計画的に設定することで、自分の大切さを実感できる仲間づくりを推進した。特に小・中一貫教育の一つとして行った交流学习（高学年児童と中学生）や集合学習（低学年・中学年児童）で、参加体験

型学習を通して、他校の児童生徒と積極的に交流し、異年齢集団による共有体験を重ね、自尊感情や相手を思いやる心を育てられるようにした。

ウ 高齢者とのふれあい

児童と校区に居住する高齢者のふれあい活動を推進したことで、地域の先輩たちを尊重し、大切にしようとする思いが児童に育まれた。特に、総合的な学習の時間では、高齢者一人一人の子どもの頃の話や地域への思いを聞き取る活動を行い、これまで以上に深く関わることができた。また、高齢者は、児童のアイヌ民族の歴史や文化に関する発表を聞いたことで、地域の歴史や文化をこれからも丁寧に伝え続けていこうという意欲を高めていた。

エ 家庭・地域への啓発

毎月行っている生活習慣チェックシートに、親子のふれあいに関する項目を設定した。日々の我が子への言葉掛けやふれあいの在り方等を見つめ直し、人権意識の高揚や自己肯定感を高めることへの意識向上を図ることができた。

また、道徳科の授業参観や人権に関する講演会への保護者や地域住民の参加を促し、学校・家庭・地域が連携して、自他を大切にできる子供の育成に取り組むことができた。

オ 学校間の連携

南種子町人権教育研修会を推進協力校の一つである花峰小学校で開催し、5・6年複式学級の社会科の研究授業や授業研究を通して、人権教育の在り方について学びを深めることができた。

また、県教育庁人権同和教育課指導主事を講師とした校内研修を複数校で実施し、人権教育の在り方を平準化した。

5. 検証・評価・改善・普及

| ア 検証・評価 | | | | | |
|---------|-----------------------------------|------|------|------|-----|
| | 質 問 | 令和6年 | | | |
| | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1 | 自分にはよいところがある。 【価値的・態度的側面】 | 31.7 | 48.3 | 11.7 | 8.3 |
| 2 | 先生は、あなたのよいところを認めてく れていると思いますか。 | 40.0 | 56.7 | 3.3 | 0.0 |

(ア) 学校生活アンケート 実施対象者：南種子町立長谷小学校(推進協力校)全校児童
4段階（4 そうだ、3 どちらかといえばそうだ、2 どちらかといえばそうではない、
1 そうではない)の平均値

| | 質 問 | 令和6年 | | | |
|---|-----------------------------------|------|------|-----|-----|
| | | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1 | 自分にはよいところがある。 【価値的・態度的側面】 | 32.6 | 50.0 | 8.7 | 8.7 |
| 2 | 先生は、あなたのよいところを認めてく れていると思いますか。 | 32.6 | 60.9 | 6.5 | 0.0 |

1 そうではない)の平均値

| | 質 問 | 令和5年(30人) | 令和6年(26人) |
|---|-----------------------|-----------|--------------------------------|
| | | 1 | 相手のことを考えた行動をしていますか。 【技能的側面】 |
| 2 | 将来の夢ややりたいことがありますか。 | 3.7 | 3.7 |
| 3 | 友達はあなたのことを大切にしてくれますか。 | 3.8 | 3.7 |

前年度との大きな変容は見られなかった。当該校では、山村留学生を全国各地から受け入れており、アンケートの対象者が異なるため、一概に数値のみで比較することは難しいが、「相手のことを考えた行動をしていますか。」の数値が3.0を下回っている。人権学習等を通して、互いに認め合うことの大切さを感じてはいるが、実践行動にまで高めることができなかつた児童がいると推測される。(技能的側面)

(イ) 鹿児島学力・学習状況調査の児童生徒質問紙
4段階（4 そうだ、3 どちらかといえばそうだ、2 どちらかといえばそうではない、
1 そうではない)の各段階の割合(%)

【児童質問紙】実施対象者：南種子町内の全小学校5年生（8校60人）

【生徒質問紙】実施対象者：南種子中学校2年生（46人）
県学力・学習状況調査の児童生徒質問紙で「先生は、あなたのよいところを認めてく
れていると思いますか。」という質問に対し、小・中学校とも95%程度の児童生徒
が肯定的に答えており、教職員が児童生徒のありのままを見つめ、思いをめぐらせ
ながら向き合う姿勢を大切にしていることがうかがえる。
しかしながら、「自分にはよいところがある。」という自己肯定感に関する質問に
ついては、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙結果の全国平均と比較して、低
い状況にある。(価値的・態度的側面)

(ウ) その他

- 推進協力校の長谷小学校では、アイヌの人々が自分たちの文化を守り継承してき

たことを、長谷校区の移住の歴史等と重ねて考える学習をした。その後、児童が設定した学習課題を基に、校区の高齢者に聞き取りを行った。高齢者を始めとする先達が困難を乗り越えて開拓したことで現在の校区の基盤が構築されたという事実と、アイヌの人々が様々な辛苦を味わいながらも自分たちの文化を守り続けてきたことを重ねて考えたことで、歴史は人々が生きてきた証であると学びを深めることができた。(知識的側面)

また、学習のまとめとして、学んだことを保護者や地域住民に向けて発表する場を設定し、地域文化を継承していこうという思いを発信することができた。(知識的側面)

- ・ 校区の文化を築いてきた高齢者との交流を通して、大切にしてきた思いや願いを知ること、ふるさとに誇りもつとともに、自分たちが地域のよさや文化を引き継ぎ、伝えていこうとする意欲が高まってきた。(価値的・態度的側面)

また、地域行事に対して、地域貢献への意識をもって参加する児童生徒の姿が見られるようになった。(技能的側面)

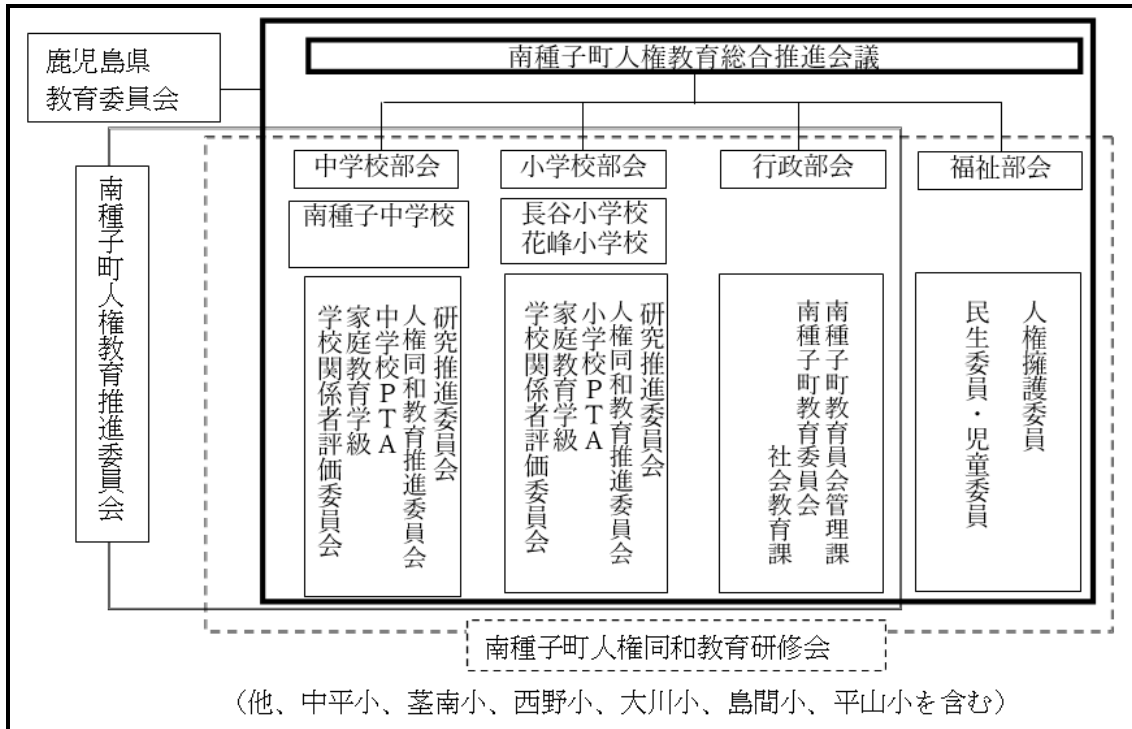
イ 改善・普及

- ・ 児童生徒の人権学習や教職員の人権教育に関する研修が充実してきた。特に、「アイヌの人々」に関する歴史や現状を把握するために、北海道平取町立二風谷小学校を訪問するとともに、二風谷小学校長を講師としてオンライン研修会を実施したことで、町全体で知識的側面の基本的な理解を深めることができた。

また、児童生徒は、アイヌの人々の生き方と、自分たちの地域の歴史を重ねて考える学習を通して、地域の先達が刻んできた歴史があって今の自分たちの生活が成り立っていることを再認識することができた。この学びをこれからの自分の生き方に生かし、他者に発信していく学びへと広げていきたい。

- ・ 児童生徒や教職員のみならず、保護者、地域住民の実態も丁寧に把握し、変容を検証・評価するために、各種アンケートの工夫・改善を行う。アンケート結果から見いだした課題を解決するために、総合推進地域事業実施計画を見直し、計画的・継続的に取り組んでいく。
- ・ 人権尊重の視点を踏まえた授業づくりや仲間づくりの取組などを充実させるとともに、児童生徒のありのままの姿を認め、称賛するなど、教職員の姿勢を大切にし、児童生徒の自己肯定感を高めていく。
- ・ より多くの保護者や地域住民が人権教育に関する研修会等へ参加できるよう、地域の回覧板や各学校のホームページ、町教育委員会ホームページ等で周知するなど広報活動の工夫・改善をする。

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



○関連資料

「人権教育研究推進事業（人権教育アーカイブの整備）」に係る「人権教育研究推進事業」資料素材



写真の名称：人権に関する展示コーナー



写真の名称：アイヌ文化の調べ学習発表



写真の名称：～みんなちがって、みんないい～
「私と小鳥と鈴と」手話、合唱



写真の名称：
地域の高齢者とのふれあい活動の様子



写真の名称：
地域の高齢者とのふれあい活動の様子